

それでも、前進あるのみ

石田 真理*

季節は廻り、雪は解け、花が咲き乱れ、そして舞い散っていく。四季を感じられる国に住む幸せを感じる瞬間は人それぞれであろうが、私はやはり桜が満開の盛りを過ぎ、はらはらと風に花卉が舞い散り、川面に花筏の流れるそのときや、もみじが色づき山や川面が赤く染まるそのときだ。時が美しく移ろう様を愛でる。

最近思うことがある。繰り返される数千年の人類の歴史のなかでは、多少の文化の発達があったにせよ、そこに生きてきた人々の日々の生活に流れる喜怒哀楽はきっとそれほどの違いはなかっただろうと。笑い、泣き、時に喜び、時に苦しみ、命をつなぎ、時に病に倒れ、天寿を全うする。数千年程度の時間は、進化という時間軸のなかではほとんど一瞬でしかない。それでも、かつては平均寿命が30歳前後であった時代から、誰もが80年の余命を期待できる時代となった。

世界はWebで繋がり、地球上の誰とでもオンラインでコミュニケーションが可能となった。それなのに、なぜこの時代に戦争や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で苦しむ人がいるのか、正しい情報さえ手に入らない人たちが、正しい声を上げることもできない人たちがいる。

自分は文化の発達した未来に生きている気持ちになっていた。われわれは、便利な道具を手に入れても、中身は何も進歩していないのかもしれない。憎しみ、嫉妬、裏切り、そんな感情さえも克服できず、人が人の命を奪うことさえ

* 東海大学医学部附属八王子病院腎内分泌代謝内科

変わらず繰り返されている。

ニュースを見ながら、ふとわが患者たちに思い至る。

腎臓病と戦い早数十年が過ぎ、ESA 製剤を手に入れたわれわれはついに HIF-PH 阻害薬さえ手に入れた。ビタミン D 製剤とカルシウムやアルミニウムで戦った合併症も、今では多くの武器がそろった。副甲状腺腫に至っては、インターベンションも手術も激減した。

それでも、まだ、透析患者の期待される生命予後は健康者の半分に過ぎない。

だがそんなことで、諦めてはいけない。歩みを止めてはならない。

体に残る進化の痕跡。きっと、最初に陸に上がったわれわれの祖先も、何度も何度も痛い目にあって長い年月をかけて今のネフロンを獲得したのだ。

争うことも進化に必要なのだろうけれど、局所の炎症が全身の敗血症に至らないように、この戦争や COVID-19 が早く鎮静化され世界に広がらないように、腎臓病が末期に至らないように、一発逆転の治療や解決策の到着をだれもが待ちわびている。

この時代の人類の底力を見届けたいものである。